

高松市・セント・ピーターズバーグ市
姉妹都市提携 50 周年記念

市民親善訪問団 報告書

平成23年10月14日(金)～10月21日(金) 8日間



Takamatsu International Association

財団法人

高松市国際交流協会

報告書目次

1	市民親善訪問団団長挨拶	1
2	市民親善訪問団活動日誌	3
3	参加者感想文	
	文化交流実行委員長 川染 節江	13
	蓮井 久夫	14
	仏生山国際交流会会長 十河 瞳	15

ご 挨拶

高松市・セント・ピーターズバーグ市
姉妹都市提携 50 周年記念市民親善訪問団
団 長 佃 昌 道
(財団法人高松市国際交流協会副理事長)



市民親善訪問団の皆様、お疲れ様でした。

財団法人高松市国際交流協会では、姉妹・友好都市との親善交流をはじめ、市民レベルの国際交流活動を通じて、相互理解と友情を深めてきました。

そのような中、本年は、アメリカ セント・ピーターズバーグ市との姉妹都市提携 50 周年を迎えたことから、これを記念し、同市への市民親善訪問団を募集したところ、当初の予定を大幅に上回る 64 人の方々にご参加をいただきました。

今回の訪問は、2011 年 10 月 14 日から 1 週間の予定で、セント・ピーターズバーグ市とニューヨーク市を訪れました。幸い、アメリカ滞在中は天候にも恵まれ、素晴らしい体験をすることができました。

その一方、行きも帰りも飛行機のトラブルに巻き込まれるなど、色々な出来事があった旅行となりましたが、皆様方の御協力により、国際交流の輪を広げるという所期の目的を達成することができました。訪問団団長として心より感謝申し上げます。

最初の訪問地、セント・ピーターズバーグ市では、一足先に同市入りしていた大西市長を団長とする公式訪問団と合流し、セ市主催の 50 周年記念式典に参加したほか、エッカード大学での交流会では、川染先生はじめ、有志の方々による文化交流実行委員会の皆様方のご尽力により、お茶や浴衣の日本文化の紹介などが行われ、温かい雰囲気の中で素晴らしい交流をすることができました。

また、ダリ美術館や近代的な小児病院などを視察したほか、セ市の自然や市民との交流を楽しんでいただきました。その中でもとりわけ、トレジャー・アイランドビーチの美しい夕日と、セ市の皆様が家庭料理を持ち寄って開催してくれたお別れ会に感動されたのではないかと存じます。

次の訪問地、ニューヨーク市では、グランドゼロで、9・11 同時多発テロと 3・11 東日本大震災の被災者への慰霊を込めて献花したほか、国連本部を訪問し、平和への誓いを新たにしました。

団員の皆様方におかれましては、今回の貴重な体験をご近所や友人の皆様方にお話しいただくなど、国際交流の素晴らしさを伝えていただきたいと思います。

最後に当協会では、今後とも、市民レベルの国際交流事業をより一層充実させてまいりたいと存じますので、皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

2011 年 10 月

【市民親善訪問団活動日誌】

市民親善訪問団活動日誌

14日

午前8時ごろ、午後からの雨という予報が嘘の様な秋の陽気の中、続々と高松空港に団員が集まった。9時からの出発式では、岸本副市長から、見送り人としておなじみになりつつあると、会場から笑いを誘う挨拶で、出発の緊張をほぐして頂いた。続いて川染文化交流実行委員長から、現地センピで開催する交流会の説明、意気込みを語って頂いた。最後に佃団長から出発に当たっての挨拶があり、友好親善への想いを胸に高松空港を旅立った。

11時15分 羽田空港着。全員バスに乗り込み成田へ移動。昼食の弁当を頂きながら、農協観光の添乗員から出国手続きなどの説明を聞く。



13時00分 成田空港到着。

チェックインを済ませ出国手続きも終え、14時40分23番ゲートよりデルタ航空機内に乗り込む。

15時15分ごろ離陸。いよいよアメリカへ。これから長い飛行機の旅が始まった。離陸3時間後、機内食が配膳された。機内ではワイン、ビールは無料、お酒の好きな団員の方たちは、機内でのお酒を楽しまれた。

現地時間で朝8時、軽食が出た。ここから現地時間に体を徐々に切り替える事になる。



11時半ごろ、昼食が配られる。頭は眠いが、外は明るい。12時ごろ着陸の予定が、オバマ大統領がデトロイト空港を使用するため、上空で待機、ようやく到着したのは13時半。空港に着き、入国審査。ここで長蛇の列に並ぶ事となり、国内線へのトランジットに時間がかかったが、2002年にオープンしたターミナルの細く長いコンコースには、ショップもあり、乗り換えの時間をゆったりと過ごした。

各々気になるショップで飲食や買い物をし、気が付くともう17時。

タンパ空港へと向かうゲート前に18時ごろ集合すると、日本食の弁当が配られた。その後、エッカード大学で開催するお茶、浴衣の着付けという2大日本伝統文化を体験してもらう文化交流の打ち合わせが始まり、総勢20名ほどの女性たちは当日の細かな段取りなどを話し合った。そうこうしていると飛行機のトラブルで出発が遅れるとのアナウンスがあった。ホテルへの到着が夜中近くになると言う事がわかり、一同疲労の色が隠せない。ようやく飛行機に乗り込んだのは21時半。滑走路から飛び立ったのは22時過ぎだった。



15日



日付が変わり、15日0時半ごろ、ようやくタンパ空港に到着。出口には、セント・ピーターズバーグ市インターナショナル・リレーションズのエリザベス・ヘレンディーンさんが日本語で「ようこそ」と書かれたウェルカム・サインを持って出迎えてくれた。長い時間待つて頂いたエリザベスさんの笑顔は、私たちの疲労を癒してくれた。

バスに乗り込み20分程でコートヤード セント・ピーターズバーグ ダウンタウン ホテルに到着した。その名の通りダウンタウンにあるクラシックなホテルで、ロビーは、20畳くらいの広さ。そこに64名がスーツケースと共にひしめき合う。添乗員から鍵を受け取り、各自部屋へ。ようやくベッドで横になる事ができた。

朝7時半にモーニングコール。支度をし、1階のレストランへ向う。いわゆるビュッフェスタイルだが、オムレツや、ワッフルをその場で焼いてくれるのが特徴。ボリューム満点で、昨日深夜の到着で空いていたお腹を満たした。

その後、希望者は、朝市を見学。10時半ダリ美術館へバスで出発した。



見学した朝市を横目にしながらセント・ピーターズバーグ市の町並みを観光。リニューアルを控えている、色合い鮮やかなザ・ピアをバスから眺め、ダリ美術館に到着。市議会議長ジェームス・R・ケネディ氏が迎えてくれた。館内のミーティングルームへ案内されると、ケネディ氏から熱烈的な歓迎の挨拶があった。現地通訳兼ガイドのキャシー・プランタムラさんによる、プロジェクターを使ったダリについてのレクチャーの後、美術館内を見学。2011年1月11日午前11時11分にリニュー

アルオープンしたこの美術館は、ダリの作品をモチーフにしたものが散りばめられており、強い風からの刺激を吸収する設計を施した強化ガラスを組み入れ、より一層ダリの美術館としての風格を感じさせるものとなっている。ここにある作品は、セント・ピーターズバーグ市を愛した、アメリカ人のモースご夫妻が45年に亘り収集したものを展示している。

ダリの想像力豊かな絵画や、映像、オブジェなどを堪能し、12時半にミーティングルームへ、会場の丸テーブルの上には、素敵な白いお皿に乗った食事が並べられていた。スペイン人のダリにちなんだ、ガスパチョスープが出されていた。このスープは、トマトとキュウリ、ピーマン、玉ねぎ、そしてニンニクが入った淡く赤い冷製スープで、10月とはいえ、30度ぐらいある気候にはちょうどいいメニューだった。



13時15分ごろ昼食を終え、美術館でのショッピングや、まだ見ていない作品を観たりなどして、ダリ美術館を満喫した。



14時、文化交流実行委員会の方たちは、ひと足早くエッカード大学へ出発。残りの方たちは、文化交流会開始までバスで市内観光へ。大学に着くと副学長のリサ・メッツさんが出迎えてくれた。会場のフォックス・ホール前には日本語クラスの生徒たちが日本語と英語で「ようこそエッカード大学へ」と書かれた歓迎のサインを持って出迎えてくれた。ホールへ入るや否や、浴衣の試着とお茶のための

セッティングが始まった。お茶組は持ってきた道具やお湯の確認などをし、着付け組は試着室の設営。一高の招へい教師だった、ジャッキーさんが着付けの手伝いに来てくれ、一層準備に拍車がかかった。

15時半、メッツ副学長より挨拶があり、交流会が始まる。佃団長からの挨拶の後、大山事務局長から記念品の贈呈、副学長からは、大学の象徴である巻貝のクリスタルの文鎮を頂いた。川染文化交流実行委員長の挨拶の後、中山さんのデモンストレーションでお茶会の接待が始まる。中山さんの点てたお茶を綺麗な浴衣を着たアメリカ人のお茶子さんたちが各テーブルに運ぶ。テーブルでは訪問団の団員、エッカード大学が招いたアメリカ人の方々のほか、十河さんをはじめとする有志の方々によって浴衣を着付けてもらった方々もお茶を楽しんだ。訪問団にはコーヒーか紅茶を、現地の方には抹茶を、カップとお茶碗で、お点前を教わりながらお茶を頂く交流が繰り広げられた。

エッカード大学からは、日本語学科の生徒による日本語と英語の歌が披露され、あたたかい拍手が会場に響いた。

その後、今回の交流会に尽力された有志の方々の紹介を兼ねて、生徒と記念撮影、そして、高松の夏の風物詩「一合まいた」を皆で踊った。交流会最後の締めくくりは、牧師さんによるお祈りがあり、日米親善文化交流会は無事終了した。



この後、バスに乗り込み公式訪問団との記念写真撮影に向かう。昨日の到着時刻では全く見えなかったタンパ湾とメキシコ湾の景色を眺める。サンシャイン・スカイウェイ大橋だ。かなりの急な橋で、下降するときは、かなりスリリング。しばらくするとバスは停車し、そこで大西市長を団長とする公式訪問団と合流し、記念撮影が行われた。ここは海岸沿いにあるセント・ピーターズバーグ市を海側から望めるスポット



らしく、ここで記念写真の後、次のスケジュールである公式歓迎会へと移動。先程渡った大橋を戻り、トレジャー・アイランドへ向かう。晴天ではなかったが、薄い群青色の鱗雲からオレンジの光が漏れている。浜辺の中腹にはテントがあり、そこにはレセプション用の食べ物と飲み物が用意されていた。そして、驚いたことに浜辺には姉妹都市提携50周年を祝う砂のオブジェが作られ、私たちが待っていた。

こちらでも、ケネディ議長、そしてセント・ピーターズバーグ市のスタッフの方々が、あたたかくもてなしてくれた。ケネディ議長から歓迎のお言葉を頂き、そして大西市長から、日本では得難いこの雰囲気の中での歓迎会への御礼の後、全員で記念写真を撮影した。ここでの歓迎会の記念にプラスチック製の容器を渡された。これにスコップで砂を入れる。甲子園球児の様な作業と砂のいった筒、



ここならではの素敵な思い出になった。19時すぎ、ようやく日は海へ沈み、雲が夕日に染められた。

その後、夕食のレストランへと移動。デッキテラスのフロアを貸し切りにして始まった夕食。肌寒いという感覚は無く、少し生ぬるい風が吹いていたが、日本の10月の夜の気温とは全く違う。メニューは、シーフードからスベアリブなどボリューム満点のメニューで、夕日の素晴らしさや、エッカード大学での交流会の話題で楽しい夕食となった。21時50分バスに乗り、ホテルへ向った。

16日



ホテルのレストランで食事を済ませ、8時45分出発。街並みの景色の中に、ひとときカラフルな色が散りばめられている建物が目に入ってきた。子どもの病気や怪我に特化した病院、オールチルドレンズ・ホスピタルに9時10分到着。病院とは思えない、かわいらしいエントランスの前で、公式訪問団の方々と一緒に記念撮影。中に入ると広いロビーで見学の班分けが行われ、NICU(新生児特定集中治療室)、PICU(小児集中治療室)、そして病室を見学。この病院ではアメリカ本土はもちろん、遠くはヨーロッパやカリブ海の島々から0歳児から21歳までの子どもたちを年間4万人受け入れ治療している。ベッド数は257床、28の救急治療室、そして、総勢2800人のスタッフが対応している。子どもの患者をいかにストレスなく、不安にさせず過ごさせる事ができるか、この病院のコンセプトがよく伝わった。看護師は、子どもに受け入れやすいユニフォームを着用し(この時期だとハロウィーンをモチーフにしたもの)、また、遠方の家族には病院の近くに患者家族専用の住宅施設を用意している。病室も家族が共に長く過ごせるだけの広さがあり、健康を促進する食事に関しては、「子どもは病院食を嫌がる」という前提で、栄養管理されたハンバーガーなど、子ども好みのメニューを用意し、ルームサービスの様に食事を発注できるシステムになっているなど、ここには、子どもとその家族が治療に専念できるような環境が、ほぼ完璧に整っていた。仕事にもかかわらず、にこやかに対応してくれたスタッフに感謝し、公式昼食会が行われるセント・ピーターズバーグ美術館へ向かった。

11時、美術館に到着。中へ入るとアジアの仏像などのコレクションや近代アートが並んでいる。さらに奥へと進むと、大きな絵画が数点飾られており、ヨーロッパの屋敷の中にいる様だ。そこでかわいい子どもたちによるバイオリン演奏が始まった。そこからまた奥へと移動すると、アメリカ人画家による、油絵の展示があった。移民して根付き始めたころの様子など、アメリカの当時の文化が垣間見える物や、ロダンなどの有名なコレクションもあった。



その後、大西秀人高松市長とビル・フォスター セント・ピーターズバーグ市長と絵画の前でグループ毎に記念写真を撮った。撮影を終えると、記念式典の会場へ移動し、自分のテーブルを探し着席する。同じ席には、現地の方も座られていた。招待されている方は、セント・ピーターズバーグ市議会の議員の方や、国際交流に貢献されている IRC(インターナショナル・リレーションズ・コミッティ)の方などで、今回の私たちの訪問を歓迎してくれた。食事は、ビュッフェスタイルで、会場のテラスには、チキンシーザーサラダ、ハム・チーズ・レタスのサンドイッチ、牛肉の煮たものと、ライスがあり、皿に盛ると牛丼のようになった。そして、アボカドとニンジンが巻かれた巻き寿司が並び、好きなものを皿に乗せた。会場には、高松市の子どもたちとセント・ピーターズバーグ市のアーティストとの共同制作で出来上がった絵が飾られ、可愛い子どもたちの絵



に囲まれながら日本や高松、アメリカ、セント・ピーターズバーグについての会話が通訳を通してされた。フロリダ州の代議士ラリー・アハーン氏からの挨拶の中で、フロリダ州がセント・ピーターズバーグ市の姉妹都市の候補として高松市を勧め、提携されたことや姉妹都市提携 50 年は、アメリカでも最も古く、こんなに盛大に友好を確認できる関係が続けられている事は素晴らしいとの話があった。この 50 年の間にどのような活動をしてきたかを伝える映像が流され、ビル・フォスター市長からも、この関係を絶やさない様に続けていきたいとの言葉があった。公式昼食会が終わりを告げる頃、各テーブルで顔見知りになった人たちと挨拶をし、美術館の外へ移動する。美術館北側には、ノース・ストラアブ公園という広い芝生の広場があり、そこで記念植樹が行なわれた。ビル・フォスター市長の挨拶で式典は始まり、両市長、両市議が植樹をした後、市民訪問団も植樹。今回の記念樹は、シルク・コットンツリーと呼ばれ、常夏の地域で育つ外来種で幹にはゴツゴツと大きなトゲがある。春には真っ赤な花が咲き、実から綿毛ができる。セント・ピーターズバーグ市としては、花を咲かせる木を色々探したのだと聞いた。南方系の植物で花を咲かせる木は



は、ビュッフェスタイルで、会場のテラスには、チキンシーザーサラダ、ハム・チーズ・レタスのサンドイッチ、牛肉の煮たものと、ライスがあり、皿に盛ると牛丼のようになった。そして、アボカドとニンジンが巻かれた巻き寿司が並び、好きなものを皿に乗せた。会場には、高松市の子どもたちとセント・ピーターズバーグ市のアーティストとの共同制作で出来上がった絵が飾られ、可愛い子どもたちの絵

に囲まれながら日本や高松、アメリカ、セント・ピーターズバーグについての会話が通訳を通してされた。フロリダ州の代議士ラリー・アハーン氏からの挨拶の中で、フロリダ州がセント・ピーターズバーグ市の姉妹都市の候補として高松市を勧め、提携されたことや姉妹都市提携 50 年は、アメリカでも最も古く、こんなに盛大に友好を確認できる関係が続けられている事は素晴らしいとの話があった。この 50 年の間にどのような活動をしてきたかを伝える映像が流され、ビル・フォスター市長からも、この関係を絶やさない様に続けていきたいとの言葉があった。公式昼食会が終わりを告げる頃、各テーブルで顔見知りになった人たちと挨拶をし、美術館の外へ移動する。美術館北側には、ノース・ストラアブ公園という広い芝生の広場があり、そこで記念植樹が行なわれた。ビル・フォスター市長の挨拶で式典は始まり、両市長、両市議が植樹をした後、市民訪問団も植樹。今回の記念樹は、シルク・コットンツリーと呼ばれ、常夏の地域で育つ外来種で幹にはゴツゴツと大きなトゲがある。春には真っ赤な花が咲き、実から綿毛ができる。セント・ピーターズバーグ市としては、花を咲かせる木を色々探したのだと聞いた。南方系の植物で花を咲かせる木は



に囲まれながら日本や高松、アメリカ、セント・ピーターズバーグについての会話が通訳を通してされた。フロリダ州の代議士ラリー・アハーン氏からの挨拶の中で、フロリダ州がセント・ピーターズバーグ市の姉妹都市の候補として高松市を勧め、提携されたことや姉妹都市提携 50 年は、アメリカでも最も古く、こんなに盛大に友好を確認できる関係が続けられている事は素晴らしいとの話があった。この 50 年の間にどのような活動をしてきたかを伝える映像が流され、ビル・フォスター市長からも、この関係を絶やさない様に続けていきたいとの言葉があった。公式昼食会が終わりを告げる頃、各テーブルで顔見知りになった人たちと挨拶をし、美術館の外へ移動する。美術館北側には、ノース・ストラアブ公園という広い芝生の広場があり、そこで記念植樹が行なわれた。ビル・フォスター市長の挨拶で式典は始まり、両市長、両市議が植樹をした後、市民訪問団も植樹。今回の記念樹は、シルク・コットンツリーと呼ばれ、常夏の地域で育つ外来種で幹にはゴツゴツと大きなトゲがある。春には真っ赤な花が咲き、実から綿毛ができる。セント・ピーターズバーグ市としては、花を咲かせる木を色々探したのだと聞いた。南方系の植物で花を咲かせる木は

なかなかないらしい。色々吟味されてこの木に決まったと知ると、感慨深い。

その後バスで移動、15時半トロピカーナ・フィールドに到着。この日試合は行われておらず、わざわざ私たちのために開けてくれていた。屋内球場施設で、人工芝が張られている。ライトスタンド上には、地元の球団、タンパベイ・レイズの象徴である生きたエイが大きな水槽の中で泳いでいるのが見えた。球場で記念撮影。この日は球場だけでなく、レイズのキャラクターショップも開けてくれており、ここでお土産を購入。青一色の店の前には、レイズのユニフォームを着た青いミッキーマウスもいた。



夜の送別会まで時間があるので、希望の方は地元のスーパー、ドラッグストアに寄る事になった。16時40分にショッピング・モールに到着、17時10分バス集合という、かなり急ぎ足のショッピングがスタートした。見るものすべてがわからない中、手当たり次第に、よさそうなものを手に取り、英単語を日本語に訳して購入するか考える。30分で決められそうにはないと思ったが、予定通りバスでホテルへと向う事ができた。一度部屋で一休みし、

18時ホテル出発。会場のミラーレイク・シャッフルボード・クラブにはすぐに到着した。公式昼食会の時は、フォーマルな装いだった方々が、カジュアルな服に着替えて出迎えてくれた。ここで、セント・ピーターズバーグ市民による送別会が開かれた。ケネディ市議長、佃団長から挨拶があり、ケネディ市議長の乾杯の音頭でパーティーは始まった。今回の訪問はもちろんの事、高校生親善研修生のホストファミリーの受入などでいつもお世話になっている、IRC(インターナショナル・リレーションズ・コミッティ)が主催のこのパーティー。モリーさんを中心に会場設営からすべて行ったという。会場には、各家庭から持ち寄った家庭料理が並んでいた。グリルチキン入りシーザーサラダや、ラザニア、メキシコ料理など、



移民の文化を感じさせる多国籍かつアレンジされた料理が並んでいて、どれもおいしかった。料理をセルフで取り、各自テーブルに着く。各テーブルには数名のセント・ピーターズバーグ市民の方たちが座っていて会話をしている。この会場はシャッフルボードというゲームをするクラブで、長年年配の方たちのゲームとして愛されていたが、ゲームの認知度を高めるため、最近では、毎週金曜日に、クラブを無料開放しており、音楽をかけながらゲームを楽しむという30代40代層の憩

いの場として、徐々に変化しつつあるという。腹ごなしに、ゲームを楽しむ団員もいた。言葉がわからなくてもゲームの楽しみ方は万国共通。非常に濃厚な交流ができたと思う。ケータリングのアイスクリームや、手作りのレモンチーズケーキなどを堪能し、送別会は 20 時半に終了。今回の滞在の感想を 50 周年のボードに書き記し、別れを惜しみつつ、バスへ乗り込む。21 時ホテル着。

17日

6 時半起床。朝食を済ませ、スーツケースを持って、ロビーに集合した。見送りに IRC の方々などが来ていた。公式昼食会で演奏していた小さなバイオリニストたちがロビーで演奏をしてくれた。佃団長がお別れの挨拶を述べ、バスへ乗り込む。

タンパ空港に到着。機内に入るまでの時間、空港のショップでお土産を買う。セント・ピーターズバーグ市で大変お世話になった現地ガイドのキャシーさん、ナオコさんと、ここでお別れ。飛行機は定



刻通り飛び立ち、14 時 35 分ジョン・F・ケネディ国際空港に着陸。空港として古いので、建物内が今までの空港より複雑で施設の規模が小さいと感じた。15 時半、空港を出て、マンハッタンへ移動。だが、早速ニューヨーク名物の渋滞。道も悪く、大きなアメリカンサイズのバスが何度も弾んだ。滞在中、天候は良いらしく、ラッキーだと現地ガイドの方に言われた。バスはグラウンドゼロへと向かう。10

年前、ワールドトレードセンターが、テロリストにハイジャックされた飛行機によって崩落した場所だ。姉妹都市提携 40 周年記念市民訪問団は、奇しくもこの事件により、渡米を取りやめる事となったといういきさつがあり、今回無事に訪問できたという事と、3.11 東日本大震災で被害に遭われた方々、9.11 同時多発テロの犠牲者の方々に追悼と平和の願いを込めて献花した。その後シェラトンニューヨークホテルへ移動。ホテルからすぐのステー



キレストランで夕食を取る。大きなステーキは切るのも飲み込むのも一苦勞。アメリカを象徴するボリュームあるメインディッシュの後はチーズケーキ。健康や肥満に気を使うと言われるニューヨーカーが愛するニューヨーク・チーズケーキは、日本のケーキサイズより少し大きく、甘さ控えめ。アメリカそして NYC を味わえる夕食だった。

夕食後は、オプションツアーを楽しんだ。

【ブルー・ノート JAZZ ツアー】

19 時、ステーキを強引にほおばり、NY チーズケーキを押し込み、バスに乗り一同グリニッジビレッジ

にある、有名 JAZZ クラブ、ブルー・ノートへ。この辺りは夜が怖い時代もあったのだが、この日は、夜でも人がたくさん歩いていた。有名クラブだが老舗なので、小さい間口をくぐるとひしめくほどのテーブルが。体をねじ込みながら席に座り、ジャッキー・ネイラーを迎える。白人にして、有色人種のエリアで育ち、彼らの教会でゴスペルを歌う聖歌隊に入る。彼女の声はとても独特なものだった。21時半クラブを去り、歩いていると、日本語で話しかけてくるアメリカ人に遭遇。一緒に飲もうと明るく話しかけてきた。ニューヨークでの交流を図りたかったが、丁重に断り、バスへ乗り込む。



【夜景ざんまいツアー】



ニューヨークでの最初の夜、レストランで分厚いステーキを味わった後、今回の旅行の楽しみの1つである「夜景ざんまいツアー」の参加者10名は、バスに乗り込み出発。車窓を過ぎる、夜でも明るく輝くマンハッタンの夜景や、イーストリバーに架かるアメリカで最も古い吊り橋の1つで、美しくライトアップされたブルックリン大橋を背景に皆で記念写真を撮ったり、遠くに浮かぶ自由の女神像に感嘆したりと、素晴らしい夜景スポットの連続に、ニューヨークの夜を心ゆくまで楽しんだ。

【ミュージカル「オペラ座の怪人」ツアー】

レストランで食後のNYチーズケーキに舌鼓した後、バスに乗り込んで、マジスティック・シアターへ。劇場の入口付近は大勢の人で賑わっていた。手荷物検査を受け、いよいよ内部へ。まるでヨーロッパの格式ある劇場に足を踏み入れたような素敵な内装。平日の夜に関わらず劇場内はほぼ満席。音声ガイドにトラブルがあったが、なんとかスタート。役者たちの演技や歌声、踊り、そして手の込んだ演出にうっとりしたり、びっくりしたり……。途中休憩を挟んで2時間半の公演。最後は客席からの惜しみない拍手とスタンディングオベーション！ミュージカルの本場NY。優雅ですばらしい夜を過ごせたことが良い思い出となった。



18日

起床。スタイリッシュなニューヨーク風のコンチネンタル・ブレックファーストを頂く。日本よりも北にあるNYC、冷房が入っていたのか、レストランは寒かった。

この日は、自由の女神、エンパイアステイトビルディング、国連を観光した。

・エンパイアステイトビルディング

入って正面に、金色に輝くビルのモチーフが描かれているエントランスを横切り、エレベーターへ乗り込む。あっという間に80階へ着き、そして展望台のある86階へまたエレベーターを乗りかえる。1931年竣工、そして、東京タワーより100mほど高いこのビルからの景色を、ガラス越しでなく、屋外で見る。天気も良く、自由の女神も望む事ができた。



・国連本部

国連本部の中を日本語での案内で見学、ここでどのような事が話されているのかなど、説明してくれた。普段ニュース映像でしか見る事の出来なかった建物の中をじっくり見学した。



・昼食

イタリア人移民の文化が色濃く残る町、リトル・イタリーへ。ここでボンゴレ・ピアンコを頂く。うどんの国からやって来た一同からすると、麺はやわらかめ。アルデンテでないと驚かれた方も多と思うが、アメリカでは、私たちの感覚の、のびたぐらいが好まれるようである。



・自由の女神

アメリカ、ニューヨークの象徴である巨大な銅像。独立100周年を記念しフランスから送られたもので、左手には独立宣言の日である「1776年7月4日」とローマ数字で書かれた独立宣言書を持っている。バッテリー公園から自由の女神があるリバティ島には、フェリーで向かう。9.11以降、セキュリティが厳しくなり、船に乗り込む前に、飛行機搭乗さながらのチェックが入る。島に到着。女神の銅像が大きく見えた。銅像の土台や銅像本体の中に入るには、人数が限られていて、予約もしくは整理券が必要。団体でのチケット入手は大変難しい状況ということで、女神を真下から眺め、その大きさ、そして、アメリカの歴史を感じた。

観光の後、一行はホテルに戻り、公式訪問団と合同のさよならパーティーに参加した。ニューヨークは歩いて楽しい街。宴会場には徒歩で移動。大西市長からの挨拶などがあり、佃団長の乾杯の音頭で部屋をぎっしり埋めつくす公式・市民両訪問団の宴が始まった。紹興酒が振る舞われ、それぞれがこれまでの旅の思い出などを話し、盛上った。20時半終了。



19日

9時半ホテルロビーに集合し、10時にバスに乗り込む。この日は私たちが帰るのを惜しむかのような雨だった。手荷物検査も人出が足りないのか、かなり待たされる。13時に乗り込んだが、機体の不備によりしばらく待たされ、結局ミールクーポン（食事券）が配られ、機体から降ろされてしまった。

ニューヨークでもう一泊するのでは、という不安がよぎったがアンテナ部品の交換で、4時間遅れで搭乗し直した。飛び立ったのは18時になってから、昼食をほぼ抜いた状態、成田には20日の20時に着く予定とのアナウンスが入り、アメリカの空港では「待つ」で始まり「待つ」で締めくくられることになった。



成田には日付が変わって20日 20時15分着、入国はガラガラでスムーズだった。20時半ごろには荷物を取り、20時55分、バスでホテルへ移動。

22時半新高輪プリンスホテルロビーで、佃団長から帰国の挨拶があった。翌日も朝が早いので、各自部屋へと解散した。

21日

朝食をレストランでとる。会う方々清々しい表情だ。この日に予定があった方もいたと思うが、ホテルで一泊して体が楽になって良かったという方も結構おられた。

第一便の全日空で飛び立つ一行は7時40分にホテルを出発、続いて第二便の班も8時20分にホテルを出発。全員無事に帰高し、今回の高松市・セント・ピーターズバーグ市姉妹都市提携50周年記念市民親善訪問団の全行程を終了した。皆様、本当にお疲れ様でした。

【参加者感想文】



(画:蓮井 久夫)

高松市とセ市との提携50周年

文化交流実行委員長

川染 節江



高松市と米セント・ピーターズバーグ市との姉妹都市提携50周年を祝う記念行事が、去る10月から11月中旬にかけて両市で実施されました。10月14日から20日までは高松市から総勢64名の市民親善訪問団が渡米し、11月には、ビル・フォスター市長と市民の皆さんをお迎えし、交流の和を深める行事がありました。セ市での2日間の行事は、貴重な体験の連続でした。ここでは、交流会の様子を報告いたします。

セ市1日目：15日早朝、ホテル前的大通りには姉妹都市提携50周年を祝う大きな幟が出ていたし、見学した朝市会場では、市民の方々から「ウエルカム、ウエルカム」とあちこちで声をかけられ、ホットな歓迎ムードが印象的で、開放的な市民の姿を肌で感じることができました。

エッカード大学では「日米親善交流会」が行われました。お抹茶のセレモニーと点てだし、浴衣の着付け体験をエッカード大学の日本語を学ぶ学生らとともに実施しました。出発前には交流会の様子がよく分からずでしたが、実際にはアダチ先生を中心に十分な準備がなされていました。私たちは、事前に実行委員会を開き、お抹茶と浴衣のグループに別れ、それぞれ準備をして臨みました。お抹茶のグループでは、お茶の点て方と「心が和むお茶」についての簡単な説明文を英文と写真入りで作成し、日本の文化を紹介しました。浴衣のグループには沢山の女性にまじり、男性のハッピー姿も加わり、大学が用意されたサンドイッチやケーキを頂きながら1時間半の交流会は、最後に高松踊りで盛り上がりました。50周年の交流会を祈念してエッカード大学から訪問団員に感謝状を頂くという、予期せぬ場面で閉会となりました。

夕方には、トレジャー・アイランド・ビーチで公式歓迎会が開かれ、真っ赤な夕日が沈む雄大な砂浜のひと時は生涯忘れられない美しい光景でした。

セ市2日目：午前中、大型小児病院オールチルドレンズ・ホスピタルを視察、近代的な設備に感心しました。つづいて記念式典・公式昼食会・記念植樹がセ市市議会議員の方々とともに行われ、ここでも、開放的な雰囲気でした。夜はミラーレイク・シャッフルボード・クラブで、国際交流委員会・親善研修生・ホストファミリー主催の家庭料理持寄り送別会が開かれ、珍しい料理を沢山いただき、市民の皆さんと交流を楽しみました。

2日間の交流会は、盛り沢山の行事が企画されており、国際交流に対する市民の方々の温かい意識と活動に支えられていたことに感謝しつつ、1日遅れで帰国しました。

高松市・セ市姉妹都市提携 50 周年記念市民訪問団に参加して

蓮井 久夫



今年は、高松市とセント・ピーターズバーグ市は姉妹都市提携 50 周年を迎え、市民親善訪問団の一員として参加いたしました。

アメリカへは、今回が初めての旅行なのでチョッピリ不安もありましたが、木太町内から顔見知りの参加者も多く、また、団員の皆様とも和気あいあい楽しい旅となりました。

セント・ピーターズバーグ市では、市を挙げての歓迎ムードが感じられ街頭では、姉妹都市提携 50 周年を祝う旗も見受けられ、様々な資料、会場等にも統一のロゴマークを取り入れた気配りの様子が見受けられました。

なお、種々の友好を深める会場においても初対面の我らに何の違和感を感じさせない優しく親切な対応がなされ和やかで親近感を覚える交流ができました。

市民参加の青空市では、見学しながら買い物もして現地市民の方々との交流の雰囲気を楽しみ思い出ができました。



第 2 日目は、今回の旅行で楽しみの一つにしていたダリ美術館の見学であります。



同美術館では無論画家ダリの作品一色で数多くの作品が広い館内を所狭しと展示されていきました。ダリは世の中から戦争のない平和な時代が来ることを願い、その代表作品の中には、もし、戦争が続いてゆけばその末路は人類の滅亡に繋がることを暗示するような作品が強烈な色彩とタッチで描かれており強い衝撃を受けました。また、セント・ピーターズバーグ美術館も大層立派な建物で著名な画家の作品が数多く展示され

ていましたが時間的制約で落ち着いて鑑賞できず残念でした。

第 2 日目の夕方、トレジャー・アイランド・ビーチで夕日を鑑賞しながらの公式歓迎会が行われました。当日は終日薄曇りの天気、夕方になっても回復の兆しなく夕陽を見ることを諦めかけながらも太陽が沈む水平線彼方を凝視していると、入日寸前にその周りの雲が忽ちに消え去り、雲間から黄金の輝きが現れたのであります。その時どこからともなく大歓声が沸き上がり、それは言葉では表現できない程の見事な光景で、それまでの夕やみ迫る海浜の風景が一変し、夕日が周りの雲に反射して空一面が藍色に染まり、至福の一時を過ごすことができました。



最後になりましたが、高松市・高松市国際交流協会その他関係者皆様には大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

姉妹都市セント・ピーターズバーグ市を訪問

仏生山国際交流会

代表 十河 瞳

1999年高松市ご関係者の方々と初めてセント・ピーターズバーグ市訪問した折、あたたかくフレンドリーに接してくださった皆様から、真のアメリカの良さを知り、感動したことを今も思い出します。姉妹都市提携を結んで50周年、記念すべき年に、今回再訪問するにあたって「日本文化の良さ」を知ってもらおうと会員10人、浴衣やお抹茶碗、お茶の道具などを持参して参加しました。

エッカード大学で行われた日米親善文化交流は大学関係者はじめ、日本語を学んでいる学生さんや高松市と縁のある人たち、そして市民親善訪問団員の皆様が協力し合って、浴衣やハッピを着せてお抹茶を体験していただきました。限りある短い時間の中で最後に高松踊りを皆で踊り、姉妹都市提携50周年を互いに喜び合うことができ、本当に良かったと思います。このことは財団法人高松市国際交流協会の事業の一環として行われている、「さぬき国際交流お正月会」や「高松まつり国際交流おどり子連」等に当会が定期的に参加してきた経験が活かされ、実のある日本的文化交流ができ大変有意義であったと思います。

セント・ピーターズバーグ市美術館においては、現市長はじめ歴代の市長様等、多数の御出席者のもと記念式典が行われて50周年の歴史、重みをひとしおに感じ、感動しました。セント・ピーターズバーグ市の皆様沢山の思い出、ありがとうございました。

会員 川西 徳大

セント・ピーターズバーグ市への市民親善訪問の一員として参加でき、日本の文化を紹介し、セント・ピーターズバーグ市民との言葉の壁を越えた交流が心に残る思い出になりました。

トレジャー・アイランド・ビーチのサンセットは最高でした。

航空会社のトラブルにも、農協観光さんの手早い対応のお蔭で気持ち良く旅行できましたことに感謝いたします。

会員 東海 末子

毎年セント・ピーターズバーグ市より“一高”へ英語の先生として来高し、その時お知り合いになった人たちと再会できると思い、参加することにしました。

フロリダは年中温暖な気候で、そこに住む人たちは皆、人情に厚いと聞いていましたが、その通りでした。また特に白い砂浜、メキシコ湾に沈む夕日の美しさときたら、筆舌に尽くし難いものがあり、心に残るとても素敵な旅でした。

会員 藤田 和毅

市民挙げての温かい歓迎の“親善 50 周年記念行事”にととても感激でした。自然体で交わした友好、いつの間にか私の心に優しく異国の風が…。そんな気持ちにさせてくれるのが、セント・ピーターズバーグ市なのですね。

友好の絆をより強く、またいつの日か再会できることを願っています。あのメキシコ湾へ沈む夕日、空いっぱいに染まった茜色が今も私を感動させています。有難うセント・ピーターズバーグ市！



トレジャー・アイランド・ビーチでの
すばらしい夕日の中でジャッキーファミリーとの歓談
(ジャッキー/元一高英語教師)



ウェルカムに感動しました。



後ろ姿もすてきでしょう。



高松おどりで盛り上がりました。

